

不透明で不確実性が高まる時代の中、 「^{ぜいへん}蛻変の経営」の推進に向けて

東洋インキグループが創業時から現在までの長期にわたり社会や地域との共生を続けてきていることは、取締役会での種々の議論の随所で、あるいはCSR報告書で的確に了知できます。また、各職場、社員の皆さんにもCSRの重要性が幅広く認識されています。

さらなる推進のためCSRの重要課題を策定されていますが、重要課題1、2は社会にイノベーションや課題解決に資する新たな価値を創出していくものであり、社会と自社の持続可能な成長を推進する取り組みの双方の観点から展開されていることは評価されます。重要課題3の人権尊重やCSR調達に関しては、経営理念である「人間尊重の経営」が会社内の土壌に根付いていると感じていますが、それを可視化し、具体的に取り組みを充実させていくことに期待しています。重要課題5に関しては海外拠点を含めた適切なガバナンスをどのように強化していくかが課題だと考えています。

東洋インキグループの製品は私たちの身の回りに数多く存在しています。しかし、それらに具体的な「形」がないた

蛻変：昆虫が卵から幼虫、さなぎ、成虫と変わるさまをいい、環境に対応しながら形を変化させて成長していくことを指す。

社外取締役
酒井邦造

【現職】
株式会社日立製作所
エグゼクティブアドバイザー



め、会社名が社会から認知していただく機会に恵まれていないのが実情です。120年の歴史を有し、社会への貢献を続けてきた東洋インキグループですが、社会のニーズが変化している今だからこそ、真のサイエンスカンパニーとして高機能材料等を軸にした「社会から見える企業体」に蛻変する、形を変えて成長することが求められています。そして優秀な人材の確保の点からも、積極的な情報発信とコミュニケーションの推進を期待します。

取締役会では社外取締役とのコミュニケーションが盛んになってきていますが、私も製造業で培った経験を生かし、別の“常識群”としてオープンマインドで支援していきたいと考えています。